



大洲の秋を彩る「大洲まつり」

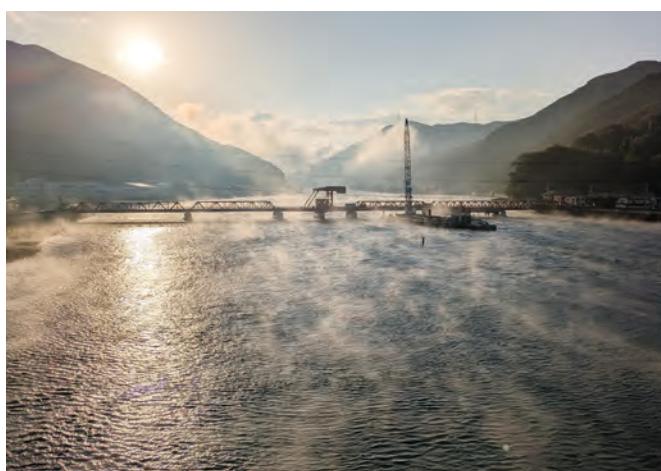
11月2日(日)と3日(月・祝)の2日間、秋の恒例行事「大洲まつり」が開催されました。

2日の八幡神社「お成り」では、約300人の行列が昔ながらの衣装を身にまとい、およそ7kmの道のりを練り歩き、沿道の人々を楽しませました。お旅所の市民会館では、大洲藩鉄砲隊による迫力ある演武も披露されました。3日には緑地公園周辺で「おまつり村」が開かれ、模擬店や郷土芸能、遊びコーナーなどに子供たちをはじめ多くの来場者が集まり賑わいを見せました。



未来の移動手段「空飛ぶクルマ」

11月3日(月・祝)、肱北緑地の多目的グラウンドで、人や物を乗せて空を移動する「空飛ぶクルマ」の無人での実証飛行が、愛媛県と大洲市の共同で行われました。機体は、中国のEHang社製のマルチコプター機で、事前に設定したルートを自動飛行できるのが特徴です。当日は、高さ20メートル地点でのホバリング飛行に続き、高さ30メートル地点まで上昇して離陸地点から約480メートルの距離を航行。力強く飛ぶ姿に訪れた人たちからは大きな歓声が上がっていました。



ようやく姿を見せた「白い竜」

冬の訪れを告げる季節の風物詩「肱川あらし」が11月8日(土)、今季初めて観測されました。肱川あらしは、大洲盆地に溜まった霧が肱川沿いを伊予灘に向けて流れ出る珍しい自然現象です。肱川あらし実行委員会の審議の結果、観測条件を満たしたとして認定され、平成10年度からの観測開始以来、2番目に遅い発生となりました。また、同委員会が実施する「肱川あらし発生初日当てクイズ」には全国から263通の応募があり、8人が予想的中させました。

笑顔あふれるサトイモ収穫祭

農業や生産者への理解を深める「オドル野菜プロジェクト in Ehime-収穫祭-」が11月8日(土)、大洲農業高校で開かれました。市内の園児や児童、保護者、同校生徒ら約200人が参加し、EXILE ÜSAさんとともに収穫の喜びをダンスで表現。会場は笑顔と活気にあふれました。また、大洲市特産のサトイモを使った「いもたき」が無料で振る舞われ、来場者は秋の味覚を味わっていました。



感謝の気持ちあふれる農業祭

11月8日(土)、大洲農業高校の伝統行事「農業祭」が開催されました。今年のテーマは「大農魂～感謝の気持ちを伝えよう～」。生徒が丹精込めて育てた花や野菜などの即売が行われ、朝から多くの来場者でにぎわいました。

大洲農業高校は来年度から大洲高校との統合が始まるため、1～3年生が揃っての開催は今年が最後です。会場では、統合先となる大洲高校の生徒も助っ人として受付や販売を担当し、農業高校の生徒と力を合わせて農業祭を盛り上げました。



第1回いづみコスモスマつり開催

11月8日(土)、出海コミュニティセンターを会場に「第1回いづみコスモスマつり」が開催されました。これは今年から休耕田となった場所を、出海地区の地域おこしグループ出勢会のメンバー8人が、草刈りや種まきを行い、およそ600m²の水田を色とりどりのコスモスが咲く憩いの場に生まれ変わらせたものです。当日は、からあげやおでんの販売もあり、地区住民らが多く来場。花を愛でながら秋のひとときを楽しみました。



市民のつどいを開催しました

11月9日(日)、福祉と健康づくりを推進する「市民のつどい(社会福祉大会)」を総合福祉センターで開催しました。式典の後、福祉団体などによるバザーをはじめ、健康相談コーナーや薬膳料理の試食コーナーなどが並び、会場は多くの来場者でにぎわっていました。

午後からは、テレビなどで活躍している精神科医・名越康文氏を迎え「自分を支える心の技法」をテーマに記念講演を実施。参加者は先生の言葉に熱心に耳を傾けていました。





プロの指導でレベルアップ！

11月15日(土)、大洲市総合体育館で、市内のミニバスケットボール団体を対象とした「愛媛オレンジバイキングスクリニック」を開催しました。市内5つのスポーツ少年団から小学生29人が参加し、アカデミーコーチによる指導を受けました。クリニックでは、体の動かし方やボールの扱い方など、日頃の練習にも取り入れられるメニューに挑戦。子供たちはコーチの言葉に耳を傾けながら一所懸命取り組み、貴重な学びの時間となりました。



龍馬の足跡をたどって 秋の河辺を歩く

11月16日(日)、河辺地域の恒例イベント「第37回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が開催されました。

河辺ふるさと公園に集まった参加者は、出立式で完全踏破宣言を行い、「エイエイオー」と声を合わせて士気を高め、2コースに分かれてそれぞれのルートに挑みました。当日は秋晴れに恵まれ、4歳から84歳までの67人が参加。紅く色づき始めた河辺の自然を楽しみながら、約160年前に坂本龍馬が歩んだ道に思いを馳せ、一步一步進みました。



世代をつなぐ交流の場に 肱川ふれあいまつり

第37回肱川ふれあいまつりが、11月16日(日)に肱川町の風のり広場で開催されました。当日は天候にも恵まれ、朝から多くの来場者で活気に包まれました。ステージでは、迫力ある仮面ライダーゼットショーや華やかな歌謡ショーのほか、恒例の餅まき・お菓子まきが行われ、大きな歓声が上がっていました。会場内には、地元団体などによる数多くの出店が並び、旬の味覚や温かい料理の香りが広場に広がりました。来場者は「食欲の秋」を満喫しながら、地域ならではの交流を楽しんでいました。



大洲農高生考案「サルチャ」ランチボックス

11月20日(木)、たいき産直市愛たい菜で大洲農業高校食品デザイン科の3年生19人が、大洲産トマトのうまみをぎゅっと濃縮したトルコ発祥の発酵調味料「サルチャ」を活用したランチボックスを販売しました。生徒たちは、料理系インフルエンサーのパパイズム氏を外部講師に、本格的なメニュー開発に取り組んできました。当日は試作と改良を重ねて完成させた「おにぎらず」と「ピーマンの肉詰め」を詰め合わせたランチボックスを販売。販売開始前から行列ができ、用意した60個はあっという間に完売していました。

大正浪漫に包まれた肱南地区

11月22日(土)と23日(日)の2日間、「城下のMACHIBITO」が肱南地区で開催されました。このイベントは「100年前の大洲の再現」をテーマに、来場者や出店者、スタッフが当時の服装を身にまとい大正時代の城下町の雰囲気を再現するものです。市内外から約100店舗が出店し、和装やモガスタイル、蝶ネクタイなどの装いで買い物や食べ歩きを楽しむ姿が見られました。会場は終日、多くの人にぎわい、往時の活気を感じられる2日間となりました。



子供たちが紡ぐ「るり姫まつり」

1960年代から続く白滝地区の伝統行事「るり姫まつり」が、11月23日（日・祝）に開かれました。白滝地区の子供たち19人が戦国時代に滝に身を投げたるり姫に扮した稚児行列では、白滝公園内のるり姫親子観音像まで歩いて登り、最後に菊の花を滝川に投げ入れて、るり姫を供養しました。また、祭りでは長浜高校生がボランティアとして参加し、出店や餅つきで会場を盛り上げていました。



温かいご支援に感謝

有限会社クリーンセンターから大洲市へ多額のご寄附をいただいたことを受け、11月25日(火)、市役所で二宮市長より感謝状の贈呈が行われました。

当日は代表取締役の福積章男さん^{のりお}が出席し、「市政のために役立てていただきたい。少しでも大洲市に貢献できればうれしい」とあいさつされ、二宮市長は「市政の発展、市民福祉の向上のため有効に使わせていただきます」と感謝の気持ちを述べました。

